



「健康講演会」

参加者募集！

青豆診療所・古澤院長による「精神の疲労・脳の疲労」についての講演です。
朝陽地区の皆さん、ふるってご参加ください！

長野赤十字病院の救急部の部長に着任したのは、2005（平成17）年のことでした。
長野日赤の救急外来に来る患者さんは、年間1万5000人です。

「指にトゲがささった」「包丁で指を切った」「風邪をひいた」「おなかが痛い」「心臓が止まった」など、いろいろな患者さんの治療をするのは本当に大変な仕事でしたが、長野日赤職員の総力、そして消防や医師会や行政の皆さんの協力で、何とか乗り切っていました。

そんな中、患者さんの中に「具合が悪いのはからだか、こころか？」という人がたくさんいることに気がつきました。

そのころから私は、「こころとからだの真ん中あたりを診てくれる医者はどこかにいないか」と思うようになりました。そして2010（平成22）年から、入院が必要な年間130人以上の自殺未遂の患者さんを自分でも診るようになりました。最初は戸惑いましたが、精神科の先生に教えてもらいながら、精神科救急の学会や厚生労働省の自殺対策研修会で勉強を始めます。

そこで私は、ある精神科の先生の一言に、大きなショックをうけたのです。

「うつ病の始まりは不眠や食欲不振や痛みであり、これは『からだの症状』である」
そして私は「からだを診る身体科の医者と、こころを診る精神科の医者の距離が遠すぎるのだ。誰かが真ん中にいなければいけない」と思うようになりました。

やがて父も母も亡くなり、ふと「私はもう親孝行ができない」と考えたとき、何かに押されるように、「自分が、からだとこころの間の医者になろう」と思うようになっていました。

青豆診療所を開設したのは2014（平成26）年のことです。

（青豆診療所「院長挨拶」から抜粋編集）

日 時 令和6年11月21日（木）午後2時から（1時間30分程度）

場 所 朝陽支所2階 集会室

内 容 「精神の疲労・脳の疲労」をテーマにした講演

講 師 青豆診療所 院長 古澤武彦 医師（医学博士）

対象者 当日参加可能な朝陽地区のみなさん

参加費 無 料

その他 昨年は大勢の方にご参加いただき、質問も沢山あり大盛況でした。
貴重なお話が聴けるチャンスですので、ご近所ご友人お誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。



申込先：朝陽地区住民自治協議会 事務局（又は、各地区の健康推進員）

電話 026-219-1068（ファックス兼用）

メール asahi-jichi@mist.ocn.ne.jp

※事前申込みなしの当日のご来場でもOKです。 担当：健康増進部会 部会長 瀬間 照子